

アートラボはしもとの再整備に向けた意見聴取の実施結果

1 概要

民間活力の導入を前提としたアートラボはしもとの再整備に向けた検討を進めるため、参加型美術施設である現施設の特性を鑑み、現在市が検討している施設整備の前提条件や考え方について、市民の皆様からのご意見を募集いたしました。

その結果、34人の方から85件のご意見をいただきました。整備の内容等については、検討の途中段階であり、結論が出ているものではないため、本市の考え方としての回答は行いませんが、お寄せいただいたご意見については、有識者で構成される審議会に諮り、具体的な検討を進めていきます。

意見募集の概要、お寄せいただいたご意見の内容については、次のとおりです。

2 意見募集の概要

- ・ 募集期間 平成30年8月17日(月)～平成31年3月31日(日)
- ・ 募集方法 電子メール、関係者へのヒアリング
- ・ 周知方法 市ホームページ、アートラボはしもとに関わる関係者への説明

3 結果

(1) 意見の提出方法

意見数		34人(85件)
内訳	電子メール	18人(33件)
	関係者へのヒアリング	16人(52件)

美術系大学教授、学芸員、学生、連携事業の美術関係者

(2) 意見の項目

ア：施設・設備に関すること イ：事業に関すること ウ：人員配置に関すること

4 寄せられたご意見の要旨

【市ホームページへ寄せられたご意見】 ()内の数字は同様の意見数

項目	内 容
施設・設備に関すること	<p>【施設のあり方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 橋本駅に近い好立地と民間の英知を活用した収益事業と組み合わせるなど、市の財政に負担がかからないような施設にしてほしい。(2) ・ 隣接した商業施設との連携を図れる施設にしてほしい。(2) ・ 有名な美術館が近隣にあるので、アートラボはしもとだけ整備すれば十分である。(2) ・ 事業目標を達成するために、なぜ新しい施設が必要なのかしっかり説明してほしい。 ・ 子供が楽しんでアートを体験し、学べる施設にしてほしい。 ・ 美大生だけでなく、一般学生も利用しやすい施設にしてほしい。

<p>(続き) 施設・設備 に関するこ と</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の外観やデザインを大学関係者や市民が考えてはどうか。 ・常設にとらわれず、空き家などの未利用施設の活用なども検討すべきである。 ・相模原駅周辺に美術館が建設された場合、市民ギャラリーの機能（貸館）をアートラボに移管した方がいい。 <p>【設備について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が集える室内のフリースペースを設置してほしい。 ・作品展示コーナーなど、作品を身近に感じられる場を作してほしい。 ・公開スタジオ的な機能の充実を図ってほしい。 ・他の美術館と一線を画すモデルルームを引き続き設置してほしい。 ・ダンスに必要な設備を備えるなど、芸術面からダンスへの支援を行ってほしい。 <p>【併設施設について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術に関する図書館やカフェ、ワークスペースを併設してほしい。 ・協定を締結している大学に在学中は自由に利用できるレンタルルームを設置してほしい。共用部に飲食コーナー、スタジオは別棟で画材等の関連業者を入店させてほしい。
<p>事業に関する こと</p>	<p>【目標 : 幅広い世代の市民が美術を体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生だけでなく中高生を含め子供の成長に合わせた体系的な教育普及活動や教育との連携を図ってほしい。(3) ・現代のコミュニケーションの一部となっている映像や写真を活用した事業を展開してほしい。 <p>【目標 : アートによるまちづくり活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートやデザインを産業ととらえ、市の中にアートやデザインで経済活動を行う人が増えるような橋渡し機能を構築してほしい。(2) ・緑区寄りに感じるアートフィールドというコンセプトを市内全域に広げてもらいたい。 <p>【目標 : 若手アーティストの支援と人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生企画展を継続して開催してほしい。 ・アーティスト・イン・レジデンスなどにより、若手作家と市民が一体となって市を代表する美術作品を創造し、美術館（相模原）で展示するなどの試みを検討してほしい。 ・作品創作体験だけでなく、知識としてアートを学ぶ美術系講座を実施してほしい。 ・アートに関わる人材を育成することを中心テーマに設定してほしい。
<p>人員配置に 関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の増加や継続的な事業展開を図るため正職員を複数人雇うべき。(2) ・市民がワークショップや展示のガイド、監視などのスタッフとしてボランティア活動ができる機会を設定した方がよい。

【関係者等からのご意見】

項 目	内 容
施設・設備に関すること	<p>【施設のあり方について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設規模は縮小せず、受け入れられる学生たちの数を増やすとともに、機能の充実を図ってほしい。(3) ・美大生等アートに関わる人たちのほか、子どもたちにとっても、新施設が細かい展示部屋の集合ではなく、自由に出入りしやすく開かれた施設であることが必要と考える。(2) ・恒久的な施設として建直すよりも、仮設的あるいは可変性を備えた建物するか、現施設に必要最小限の手直しを行う程度の施設整備を検討してほしい。(2) ・エレベータや点字表示などのバリアフリーをより考えた施設にしてほしい。(2) ・商業施設との合併もしくは連携が図られる施設にしてほしい。 ・アートラボはしもとを中心施設ととらえ、展示場等で空き家・倉庫などを活用する取組も検討してほしい。 ・美術館基本構想の具現化のため、地域とアートの関係性を育てる場として機能する施設にしてほしい。 ・大人向けにも事業を展開していくのなら、子供の自由も大切だが、大人もじっくりと作品を鑑賞できる空間作りが大切である。 <p>【設備について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランスでの情報発信コーナーのほか、図書館と連携することで、美術関連の本の閲覧スペースを設置してほしい。(2) ・現行施設にあるショールームを活用した国内外の作家を招聘したアーティスト・イン・レジデンスや、美大生の提携大学間交流を目的とした合宿活動などへの展開、展示室などでの利用ができるようにしてほしい。(2) ・子どもたちが集う場所として、黒板コーナーは大変役に立っているスペースであると思うので継続した方がよい。(2) ・専用の展示スペースを確保し、学生・団体の作品が常設されれば、展示会がない期間でも来館者が施設を訪れる可能性が増える。 ・展示スペースは、できるだけ自由度が高く実験的な要素を残してほしい。 ・活動報告の場(掲示板的なものでも)を常に設置し、誰でも見ることのできる空間を確保してほしい。 ・テラスや庭などの活用方法として、屋外を空間に取り入れるようなスペースの検討を行ってほしい。 <p>【併設施設について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者の情報交換及び憩いの場として、民間参入によるカフェ(軽喫茶 & バー)などの設置してほしい。(2) ・ライブハウス、映画館、飲食スペース、ホワイトキューブを導入してほしい。

<p>事業に関する こと</p>	<p>【目標 : 幅広い世代の市民が美術を体験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの対象者が、小学生向けに偏っている。近郊の中学校、高校などとの連携や社会人や高齢者など幅広い対象者に向けた企画も必要と考える。特に中高生や またその学校の先生を引き込むような教育活動と連携した活動を展開した方がよい。(8) ・社会人向けのアートの講座を夜間に開設してはどうか。 <p>【目標 : アートによるまちづくり活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「アートセラピー」によるアウトリーチ活動などで、多くの福祉施設とも積極的に連携を図ってほしい。 ・「新たなアートを学び、創造する場」の創出を目指すところがあるが、アートによるまちづくりをどう目指しているのかもっと説明がほしい。 <p>【目標 : 若手アーティストの支援と人材育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸員の出張講義が好評なので、事業として学校へ出張授業を行ってほしい。 ・地域のアーティストや美大生などがデザインしたツールの街中への展開や、企業とのコラボ商品の開発などに取り組んでほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学連携以外に、市民の理解を得るためには市民に目を向けるべきである。 ・年に 1~2 回、外部の人を招いて意見を聞く機会を持つことで、活動を客観視した意見も聞けるし新しい企画も生まれてくるのではないかな。 ・これまでの価値観に捕らわれない「アートの実験」を公に開示し、価値付けする公的機関への展開を図ってほしい。 ・行政にかかわる様々な規制からもっと自由に活動できる体質になること望む。 ・集客数や事業数などの量的評価以外に、質を評価できる仕組みとして、独自の K P I (重要業績評価指標) を設定してはどうか。 ・夜間の開館時間を増やすことと、ショップを設置してほしい。
<p>人員配置に 関すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・能力の高い美術の専門職員の定着及び人数の確保は、他の全てに優先するものとして、取り組むべきである。(3) ・現在のスタッフ数を「普及係」とし、さらに独自の展覧会企画を担う「学芸部」の発足などスペシャリストの拡大組織化を検討してはどうか。 ・常設展示も行うとなると職員の手数が今の体制では危険だと感じる。職員数を増やし、作品の監視体制を万全な状態にするべき。 ・館のスタッフに臨床美術士を入れることで、福祉に関わる活動を行える。 ・アートボランティアの登録制度を創設してはどうか。